【2017年度活動報告】

2017年度より、会計年度・事業年度を官公庁に合わせて4月始まりとし、行政との協働の便宜を図りました。また、関東に新しい理事を加え体制を強化し、岡山に続いて関東でのワークショップをスタートさせました。主な役員は以下の通りです。

・代表理事：河本美津子(岡山県岡山市）

・理事：太田理香(岡山県岡山市）、風穴江(神奈川県横浜市)、 速水菜々子(東京都新宿区)

・監事：是光則子(岡山健岡山市)

以前サポーター登録の無かった地域でも活動の周知が広がり、地域ごとのサポーターグループも増えました。さらに地域だけでなく、活動によるグループ(WEB会議室、フォスター・ペアレント、ぐるーん愛のベビースタイプロジェクト、イラストストーリー等)や、施設ごとのグループも引き続き活動し、サポーター相互の連携と連帯の強化に寄与しています。地域や活動施設でサポーター同士の交流会(関西、熊本、関東、甲信越、東海、岡山)も随時開催、思いを共有したり困った時には相談したりできる仲間作りを図りました。

2017年度の活動テーマは「愛着」と「自己肯定感」

虐待や母子分離によって乳幼児期に必要な愛着が形成されないと、自己肯定感の低さを初め成長過程で様々な困難を生じることから、子どもにはできるだけ早い時期での愛着形成が必要です。ぐるーんのサポーターは親や主たる養育者ではありませんが、定期的に施設を訪れて子ども達との距離感に応じた愛着を形成すべく、抱っこやスキンシップ遊びを通して子ども達との関わりを継続しています。

2016年度からスタートしたワークショップは、児童養護施設で子ども達がサポーターと一緒に何かを作り出す時間。大人は子どもを見守る役目に徹し、子どもの自主性を生かし、褒めて子どものモチベーションを高め、必要に応じて手助けします。子どもには自分のことを見てくれる大人がいる安心感、大人と協力することでより良い作品ができる喜びと達成感を感じること、自分のやり方を否定されないことで自己肯定感の高揚等を目指して継続しています。施設の先生から「子ども達が変わってきた」との言葉をいただきました。

ぐるーんの活動の3つの柱については、各地で以下の活動をしました。またここ数年特に力を入れている取り組みが、社会的養護を卒業する若者への就職支援です。2017年度からは、それも4つ目の柱として活動に組み入れました。

①乳児院・児童養護施設での抱っこ：2018年3月現在累計サポーター登録数は約1800人、そのうち乳児院・児童養護施設での定期的な抱っこに通っているサポーターは約100人。

社会的養護自体が施設養護から家庭養護へと大きく方向転換しようとしている今、施設にいる子ども達は以前より減少の傾向にあります。乳児院や児童養護施設へ定期的に通うサポーターも抱っこだけでなく、掃除やおもちゃの消毒、ベビーマッサージ、絵本の読み聞かせ、学習支援、食育やワークショップ等、自分のできることで施設の子ども達や職員さんと関わっています。

②生育環境の違いを超えた子ども達の交流イベントの開催：5月美星町ぽこあぽこイベント(岡山・参加者50人)、7月サバイバルイベント(岡山・107人)

③里親制度・養子縁組制度に対する理解を深めるための情報発信と広報活動：6月：あいぽーと文化祭(熊本)、7月・11月DVD鑑賞会(岡山)、8月学習会：愛着障害を修復するためのプログラム(岡山)、10月里親フォーラム・里親タペストリー展示・里親冊子製作・一時里親のリーフレット増刷(岡山) 、11月品川子育てメッセ参加(東京)、2月すぎなみ子育てメッセ参加(東京)、3月学習会：自己肯定感を高めるためのプログラム(岡山)。

④児童養護施設の子ども達への就労・進学支援と居場所作り：

１．マナー講座：外部講師の指導で、児童養護施設でマナーとコミュニケーション講座を開催し、社会で必要な人との関わり方を継続して学習する機会を提供しました。講座終了後は講師とサポーターも子ども達と一緒に昼食をとり、交流や情報交換の場を持ちました。

２．法律教室：司法書士でもあるサポーターの協力で児童養護施設での法律教室を開催しました。マナー講座でも顔を合わせている子ども達もいて、発言もしっかりでき、施設の先生以外の大人との学習の機会に真面目に取り組んでくれました。

2016年度に引き続き、ぐるーんの企画した一連の事業が岡山市市民協働推進モデル事業に採択されたことで、行政との協働がさらに進みました。「里親委託を推進するための、里親制度の普及啓発及び委託促進事業」と題したこの事業は、子ども達への関心が、自ら里親(週末里親を含む)となることで、家庭での児童養育を推進する一助となり、周囲の人々への啓発ともなるものです。

2017年5月から2018年3月まで、学習会(2回)、花育ワークショップ(4回)・模型ワークショップ(2回)・鍵盤ハーモニカワークショップ(8回)の開催、里親フォーラムの開催、里親に関するイラストストーリの冊子製作、一時里親のリーフレット増刷、里親のタペストリー展示などを、岡山市こども総合相談所と協働で行いました。

また、愛のベビースタイプロジェクトでは、愛媛県のIKEUCHI ORGANIC様のご協力でタオルを送っていただき、継続してベビースタイやおもちゃを手作り。11都府県で活動が引き続き行われ、19軒の乳児院へお届けしました。定期的に抱っこに行けないサポーターも参加でき、サポーター同士が顔を合わせる機会としても活用。製作の拠点となる場所ができた地域もあります。

ぐるーんの活動が地域で認知されることで、支援の仲介も広がりました。フードバンク様ご提供のお菓子・食材・雑貨、アサヒビール様ご提供のおせち料理セットを、地域リーダーの協力によって全国の乳児院・児童養護施設・児童自立支援施設へ届けました。さらに個人事業主様からのお菓子や野菜の提供や飲食店への招待の仲介、衣類やおもちゃも届けました。

【2018年度活動計画】

2018年度の活動テーマは「想像」と「共感」

人は、自分が体験したことのないことは厳密には理解できないかもしれませんが、想像することはできます。その人の置かれた立場を想像し、理解できなくともわかる範囲で共感することで、自分とは違う人を批判するのではなく受け入れる社会を目指します。

これまで活動の対象であった「社会的養護の必要な子ども達」だけでなく、虐待に至る前の子育てに困難を感じているお母さんや、居場所がないと感じている子ども達へのアプローチも行います。

ぐるーんの願いは全ての子ども達の幸せ。子どもには、自分を愛してくれる大人のいる家庭で育ってほしい。里親制度・特別養子縁組制度への理解が広がること、その前に母子分離しないための適切な支援が必要に応じて行われることを願います。子ども達の人生は生まれ出る前から始まって、社会的養護を卒業しても続きます。その時期に応じて必要な支援ができるよう地域社会に根差した活動を行います。

①乳児院・児童養護施設での抱っこ：子どもは社会の宝、母親に宿った命が大切にされるように。養育困難な母親の支援や、里親制度・特別養子縁組制度への理解を拡大します。また施設で暮らす子ども達には、定期的な抱っこやスキンシップ遊びで愛と温かさを届けます。そして、抱っこだけでなく、施設で暮らす子ども達の助けになることに協力します。

②生育環境の違いを超えた子ども達の交流イベントの開催：大人も子どもも一緒になってアウトドアでのびのびと1日を過ごします。子ども達相互の交流だけでなく、施設や学校の先生以外の大人(広義の里親候補)との出会いの場にもなる交流イベントを開催します。

③里親制度・養子縁組制度に対する理解を深めるための情報発信と里親（週末里親を含む）登録推進。地域社会で里親里子・養親養子が受け入れられるために：

１、里親フォーラム・DVD鑑賞会の開催：1人でも多くの市民に施設で暮らす子ども達のことを知ってもらい、彼らにとってよりよい生活ができるように情報発信と学びの機会を提供します。今年は特に社会の宝を生み育てる母親への支援が広がることを目指します。

２、児童養育に関する学習会の開催：児童の発達について理解を深め、児童養育に必要な知識や技能を身に着けることは、里親だけでなく子ども達と関わる大人には必要なことだと考え、発達障害や虐待の影響による愛着障害を抱えていたり、非行へ走ってしまったりする子どもへの理解を深め、対応の仕方を学ぶ学習会を開催します。

３、施設で暮らす子ども達とふれあうワークショップの開催：里親に関心はあるものの踏み出せない人や、まず子ども達を知りたい人のために、施設でのワークショップを開催します。子ども達にとっては、それぞれのワークショップが情操を深めたり、自己肯定感を高めたり、様々な職業を知る機会になったり、また学校や施設の先生以外の大人とふれあう機会になります。・花育・模型・鍵盤ハーモニカ・お菓子作り・食育・ダンス等のワークショップを各地で開催します。

４、ぐるーん式週末里親登録の推進：施設で暮らす子ども達には、一緒に暮らせる親がいないだけでなく、祖父母や親類もなかなか親身に関わってくれません。養育里親にはなれなくても週末里親としてその子と関わり、愛情をかけ、しっかりと向き合ってくれる大人が必要です。また自分が将来家庭を持つ際のモデルになるような家庭を知ることも大切です。週末里親は、養育里親の前段階として以上に意義があることを確認し、その子にとって安心して頼れる大人の1人になることを目指します。

④児童養護施設の子ども達の就職・進学支援と居場所作り

児童養護施設を退所した子ども達は、上級学校への進学が難しく、就職して自立するのが一般的です。しかし、就職はしたものの続けることが難しく住むところも失ってしまう若者が多い現実があります。

１、中学・高校在学時からコミュニケーションの取り方や就活マナーを学ぶ機会を提供し、希望の職種に就職できるよう支援します。さらに施設退所後も交流を続け、社会に出た青年たちが孤立することのないように居場所を作ります。

２、施設を退所後、親元へ帰る子もいれば、自立援助ホームやグループホーム、また1人暮らしをする若者もいます。それまでの集団生活から1人で暮らすだけでも大変な時に、頼る人がいなければ不安は想像以上に大きいものになるでしょう。社会へ出て必要な知識や身に着けておかねばならないスキルを学習する機会を提供するために、施設での法律教室を開催します。

３、大阪府の㈱トレジャー・トレーディング様との提携により、施設を卒業する若者への就職斡旋をスタートします。就職斡旋だけでなく、施設にいる間から様々な仕事への関心を高め、身に着けておかなければならない技術の習得や就職後のフォローまで視野に入れています。専門学校での資格取得が必要な場合は、進学支援も相談に乗ります。

「全ての子どもたちが愛し愛される大人に抱かれて眠りにつけるように」

これは、ぐるーん設立当初から念じてきた願いです。子どもは社会の宝であり、未来への希望。親や親類だけではなく、地域の中で愛されて育つ権利があります。一連の事業や広報活動を通して、親と暮らせない子ども達に対する認知を広め、血縁を超えた新しい家族のかたちが当たり前に受け入れられる社会の実現に貢献できるよう尽力します。

今年度も、ご支援ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。